

相模女大家政 永井房子 ・ 田中百子  
 実践女大家政 平山暎え

目的 縫製作業を能率よく正確に行うには種々の要素が考えられるが布地の裁断も重要なポイントの一つである。特に布地の裁断にあたっては単に一枚の布地を裁断する以外に何枚も布地を重ねて一度に裁断する場合がありその際最上層と最下層の布地とでは布地がずれて裁断され問題になることとをしばしば経験する。そこで前回我々は布地方向、重ね枚数などの違いによる裁断時の布地ずれと物性の関係について実験を行った。今回は布地の重ね方、方向の違いによる裁断時の布地ずれと物性との関係について検討した。

方法 試料布は組織、糸密度、厚さ、起毛の有無など異なる布地7種類を用いた。布地の重ね方(なか表、なか裏、なか表裏)方向(たて、よこ、22.25°、45°、67.25°バイヤス)などの違いによる布地のずれ寸法を測定した。つぎに物性値として摩擦係数、剛軟度について実験を行い布地のずれ寸法との関係を調べた。はさみは一般的に用いられてゐる裁断はさみを使用した。

結果 布地の方向によるずれ寸法はたて、よこ方向が小さくバイヤス方向のずれ寸法が大きい。特に22.25°、67.25°のバイヤス方向が大きい傾向を表わした。重ね方によるずれ寸法はなか表のずれ寸法は小さくなか裏の場合にずれ寸法が大きくなる傾向を表わした。摩擦係数とずれ寸法の関係においては摩擦係数が小さいすべりやすい布地の方がずれ寸法が大きくなる傾向を表わした。剛軟度とずれ寸法との関係においては剛軟度の大きい布地の方がずれ寸法が大きい傾向を表わした。個々の布地においてはさらに検討を要すると思われた。